

会議名	第1回宇部市産業振興計画推進委員会
日時	令和6年7月1日（月曜日）14時～15時30分
場所	宇部市役所3階 第3-4会議室
出席者 （敬称略）	委員12名（欠席6名） 事務局8名 （宇部市産業経済部2名、成長産業創出課1名、中心市街地活性化推進課1名、 商工振興課4名）
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回 宇部市産業振興計画推進委員会 次第 ・ 宇部市産業振興計画推進委員会委員名簿 ・ 宇部市産業振興計画推進委員会設置要綱 ・ 令和6年度第1回宇部市産業振興計画推進委員会資料 ・ 座席表 ・ ご意見アンケート
会議内容	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和5年度重点施策の実績について 2. 令和6年度重点施策の取組について 3. 今後の施策テーマ案について 4. 令和6年度委員会スケジュールについて 	
主な議事内容	
<p>議題（1）令和5年度重点施策の実績について</p> <p>≪事務局より令和5年度の実績について説明≫</p> <p>⇒意見・質問等は以下のとおり</p> <p>【重点施策1：成長産業の創出と育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究開発技術シーズの提案件数の具体的な内容について、傾向などがあれば教えてほしい。 （委員） ⇒広島大学発のベンチャー企業による再生医療とリハビリを組み合わせることで脳梗塞の完治を目指す取組や、山口大学工学部初のベンチャー企業が市内企業とタッグを組んで、先進医療研究のための技術を展開している。（事務局） ・ KPIについて、企業では特に行動（インプット）の結果として、実績（アウトプット）が出るものとして認識しているが、ここで説明されたアウトプットの定義を教えてほしい。（委員） ⇒行動結果をアウトプットと定義している。アウトプットを積み重ねた結果、もたらされる企業の行動変化や成果を短期アウトカム、これらを5年10年と積み重ねることによって社会的なインパクトにつながっていくという定義。（事務局） <p>議題（2）令和6年度重点施策の取組について</p> <p>≪事務局より令和6年度重点施策の取組について説明≫</p> <p>【重点施策1：成長産業の創出と育成】</p>	

・パイロットプロジェクト、イノベーションプロジェクト、スタートアッププロジェクトについて、これらの補助金の採択件数を教えてほしい。（委員）

⇒採択件数は総数で27件（事務局）

⇒昨年度採択された中に、今後、出資が増加し、成長が見込まれる企業がある。企業にこうした補助金を積極的に使ってもらって、成長を遂げてほしい。（委員）

・宇部市が成長産業の創出に力を入れ、大学発のシーズをスタートアップに引き上げていくことで、地元企業との連携が生まれ、企業としてさらなる成長が見込まれることになる。今後も引き続きこの好循環に取り組んでいただきたい。（委員）

・産学連携で取り組んでいくためには、取組をオープンにして進めていくことが重要。情報発信に取り組んでいただきたい。（委員）

・DXを進めるにあたっては、Y-BASE 宇部ランチで企業の困りごと相談に乗ってくれる。生産性向上に対するアドバイスは、今後の企業の成長にも貢献すると思う。（委員）

⇒相談希望があれば、成長産業創出課まで問い合わせいただきたい。（事務局）

・成長産業の取組が、波及効果を生み出し、地域の中小企業を活性化するようになってほしい。（委員）

【重点施策2：経営基盤強化と事業継続の促進】

（DX研究会）

・大企業でも、DXの取組については、技術面に長けた職員が、最初にトライアルを実施するため、ワーキンググループを立ち上げたりしているが、デジタル化にとどまることが多いと感じている。大企業でもこのDX研究会に参加できるのか。（委員）

⇒研究会では、UBE株式会社DX推進室に御協力いただいている。大企業ならではの進め方等を研究会で共有していただきたい。（事務局）

・実装については、デジタル化を進めたい企業とベンダー企業とで、実装に向けた取組を進めていくと思うが、あえて研究会形式にしている目的はなにか。（委員）

⇒同業種、同業界における企業同士でデジタル化に向けて取り組んだ事例や困りごとの共有も研究会の目的。（事務局）

・DX研究会で生まれたソフト開発の権利関係は誰にあるのか。また、税理士事務所の会計ソフト導入計画が紹介されたが、他の税理士事務所への展開などに事例を活用する予定はあるか。（委員）

⇒ソフト開発については、ソフト開発を行ったベンダー企業に権利が帰属する。他の税理士事務所への展開については、研究会の成果として発信していきたい。（事務局）

（事業承継）

- ・質疑等なし

【重点施策3：産業を支える人材の確保・育成】

(リスクリングについて)

- ・質疑等なし

(企業の人材確保とキャリア教育の取組)

- ・奨学金返還支援事業について、文系理系などの学習分野で対象者に制限があるか。また、申請人数の制限はあるか。(委員)

⇒対象者や申請人数に制限はない。また、現在在学中で、令和7年度に就職する学生についても対象となる。なお、申請受付期間については、令和7年11月から12月である。(事務局)

【重点施策4：人が集う場や機会の創出】

- ・人が集う場の創出として、ハード整備を行うが、活性化をするためのソフト事業も必要と考える。ハードの整備とそれ集まる人や企業が稼げる好循環を生むことが重要。(委員)

⇒人が集まり、にぎわいを創出することで、そこから仕事生まれる好循環を目指していく。(事務局)

- ・まちなかウォークブルの取組で、ときわ公園のように、野外彫刻を設置してほしい。また、エヴァンゲリオンの活用を検討してほしい。(委員)

- ・飲食の魅力を発信する会合の中で、宇部市内で今最も人が集まっている場所は、宇部市役所であることが分かった。市役所は、人が集まる場所ということで、ウォークブルの取組にあわせて飲食場所の提供など、その活用を検討してほしい。(委員)

議題(3) 今後の施策テーマ案について

≪事務局より令和7年度施策に反映させるためのテーマ案について説明≫

⇒「企業の人材確保について」をテーマとすることで決定

- ・人材確保のテーマは賛成。事務局の案だと採用に向けた施策を議論するようになる。しかしながら、何かに取り組んで、すぐ採用に繋がるかということ、それは非常に難しい。それよりは、今いる人材の離職を防ぐ、または今いる人材の能力を上げていく。リスクリングを含めて総合的に何か施策を検討した方がよい。(委員)

- ・企業の人材不足に対する課題を議論することは賛成。ただし、人材不足の状況をもう少し細かく分類する必要がある。例えば、求人にもそもそも応募がないのか、応募はあるけど採用には至っていないのか、採用はしたけど、短期間の離職が多いのか、もしくは業種によって人材不足の状況が顕著になっているのかなど、それぞれの状況によって打ち手は異なる。専門部会ではその辺りの議論をお願いしたい。(委員)

議題（４）令和６年度委員会スケジュールについて

≪事務局より専門部会及び今後のスケジュールについて説明≫

- ・専門部会のメンバーはどのように決まるのか。（委員）
- ⇒金融機関や中小企業団体、宇部商工会議所等の支援機関を推薦団体として、メンバーを推薦していただき、委員を選任する。（事務局）
- ・今後の資料作成については、宇部市産業振興計画の中間見直し（令和８年度）を見据えて、アウトプットの経年推移や、取組を続けることによって得られた中長期のアウトカム指標についても掲載をお願いしたい。（委員）

その他

- ・意見なし。

以上

【アンケート意見】

（質問）

- ・資料６ページ、令和５年実績で、職場環境改善の支援、健康経営関連の情報発信が、進捗評価で計画の７５％となっており、改善策として、健康経営支援に関する情報発信の強化が示されている。
一方で、令和６年度取組には入っていない。これは、進捗状況から重点施策に入れなくてもよい、ということか。（委員）
- ⇒健康経営取組については、重点取組の一環として、健康経営に取り組む企業のきっかけとなるように、補助金による支援制度を令和５年度と同様に実施する予定。資料６ページで示す健康経営支援に関しては、補助金の周知を含め、企業訪問を通じて情報発信を強化していく。（事務局）
- ・資料７ページにある「本市認知度向上」と「コンベンションの活性化」も令和６年度取組がない。重点項目として継続されない理由を御教示いただきたい。（委員）
- ⇒今回の委員会資料において、特段の記載をしていなかったが、当該事項については、引き続き重点施策として令和６年度に取り組むこととしている。
具体的には、認知度向上について、ロケ地誘致助成金の告知をはじめ、継続的な誘致活動を実施し、コンベンションの活性化についても、宇部観光コンベンション協会と連携してコンベンション誘致に取り組んでいく。（事務局）
- ・資料１７ページのうべ中小企業等DX研究会について、研究会の拡大と高質化に注力とある。拡大には情報発信が必要で、事業者をその気にさせないといけない。本市事業者は、同研究会のことを知らないという認識。どのように拡大していくのか、御教示いただきたい。（委員）

⇒今年度の拡大手法の具体案としては、

- ・ 宇部商工会議所における各部会での DX 研究会の取組の紹介とアンケートの実施
- ・ くすのき商工会へのお願い
- ・ 市内金融機関（山口銀行、西中国信用金庫、西京銀行）に対して、DX 研究会の取組の説明を行うとともに、顧客への紹介をお願い

以上を通じて、研究会への参加を促し、DX に取り組む企業を増やしていきたい。

また、DX 実装を支援するサポーター企業については、今年度に入り、市内のベンダー企業 5 社と個別面談を行い、研究会への参加に繋げた。（事務局）

（意見）

【今後の施策テーマ案について】

- ・ 企業と求職者のマッチングに関しては、求職者の就職希望職種を事前に把握し、希望職種単位でその希望職種に対応する企業とマッチングできるよう企業訪問や企業説明会を実施することが必要。
また、教育機関、特に高校、高専の就職担当者に、宇部市内の中小企業に対して良い印象をもってもらうことが必要。近年、中小企業も職場環境の整備や福利厚生に力を入れている企業が多いので、ひと昔と変わらない 3K 職場という印象を持っておられる先生方の意識を変える取組も必要。
- ・ 市内には DX に関わる企業が多くある。また、DX に詳しい技術者はどの企業も欲しいと思っている。DX や情報処理を専攻する学生を対象に企業説明会を実施し、地方の企業でも都会の企業に負けない技術力や働きやすい環境を持っていることを PR できたらよいと思う。

【推進委員会運営について】

- ・ 会議時間については、現在は約 1.5 時間だが、最長 2 時間とはできないか。時間が迫ってくると、発言していない委員に発言を求める時間が取れないので検討してほしい。

【DX の取組について】

- ・ 研究会の役割・存在意義の一つとして、企業の困りごとと解決のためのシステム・ベンダー選定の繋ぎ役もある。
- ・ 企業側からすると、ベンダーから紹介されるソフト以外に、企業の課題にあったソフトが存在する可能性があり、選定が難しい。
その辺りは、実際の研究会メンバーの方にもヒアリングされると状況が分かると思う。

【人が集う場について】

- ・ 「にぎわい交流拠点施設」に来てほしいターゲットを想定しているか？
そのターゲットが、市役所周辺でどのような行動をしてほしいと想定しているか？
昨日の話では、市役所に人が集まるということですが、来る人は基本的に目的が明確にある

ので、家族などを連れては来ない可能性がある。

そのような人が平日に来て、交流拠点や周辺でどのように過ごすのかは、イメージがしづら
いと感じた。

(最近では、郊外のショッピング施設などに人が流れているかと思うが、市の中心に流れを作る
ためには、催し・飲食などの仕掛けや駐車場など周辺施設の開放などの準備も必要かもしれ
ない。)

皆さんでも、ビジョンを共通化・明確化されてはどうか？

【学生の確保等について】

- ・今後さらに生徒数が減るため、高校の統廃合が加速することが予測される。

地域産業を支える人材を送り出し続けるためには、生徒に現代社会に必要なスキルを身につ
けさせるだけでなく、教職員も社会の変化に対応した新たな力を身につける必要がある。

また、学校においても教員の確保と DX の導入による業務改善が求められ、市内唯一の工業
高校を存続させるためには、入学志願者の確保が必須。

課題は山積しているが、少しでも地域に貢献できるよう、今後とも取り組んでいくので、御指
導の程よろしくお願ひしたい。

【運営について】

- ・資料の送付をもう少し早くお願ひしたい。また速達はもったいないので、差し支えなければ
PDF をメール送信でよいと思う。